

7月29日(木曜日)

ドル/円

## 株価と新規失業保険申請件数に注目

### 28日(水)の主な推移

ダウ平均株価

10497.88ドル  
(-39.81ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

3.0012%  
(-0.0491%)

NY原油先物

76.99ドル  
(-0.51ドル)

チャート: 30分足 28日(水)朝6時 ~ 29日(木)朝6時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所: 外為どっとコム

- |   |  |
|---|--|
| ① | 豪第2四半期消費者物価指数が市場予想を下回る結果となり、豪ドル/円が50銭以上急落したことにより、ドル/円も87.65円まで値を下げる場面が見られた。  |
| ② | 午後に入り日経平均株価が上げ幅を拡大し、上海株式市場も上昇したことにより、市場ではリスクを積極的に機運が高まりクロス円が上昇した。これを受けてドル/円も値を上げ、一時7月15日以来となる88.11円をつけた。                             |
| ③ | 米6月耐久財受注は前月比-1.0%と市場予想(+1.0%)を下回り、除輸送用機器も前月比-0.6%とこちらも市場予想(+0.4%)を下回る結果となると、ドル/円は軟調に推移した。しかしその後、米5年債の入札が好調な結果となると、ドル/円は87.72円まで反発した。 |
| ④ | 米地区連銀経済報告(ベージュブック)では「経済は大半の地区で継続して拡大しているが、2地区は横ばい、他の2地区はペース減速」など米経済の不透明感を表す内容となり、米ダウ平均株価が下落。これによりドル/円も87.26円まで下げた。                   |

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 87.10- 88.20円

ドル/円は主要国の株式市場や米長期金利の動向に左右されやすい展開が続いている。リスクを積極的に取る場面では株高やクロス円の上昇により、ドル/円には上昇圧力がかかりやすくなる半面、リスク回避の動きが強まる場合、ドル/円にも下落圧力がかけると見られる。

本日の材料としては米新規失業保険申請件数の発表が予定されており、翌週末に発表が予定されている米7月雇用統計に向けて、市場では注目されそうである。そのほか昨日の米耐久財受注が市場予想を下回る結果を受け、明日の米第2四半期国内総生産(GDP)を不安視する意見も聞かれる。市場では米国の景気回復見通しについて確信を持ってない状況が続いている。明日のGDPや翌週金曜の雇用統計を始め、来週にかけて重要な米経済指標の発表が相次いでいることから、これらを意識した上で米経済の回復見通しをどう見るかが、ドル/円相場でのポイントとなりそうである。(川畑)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/29(木)	21:30	○	(米) 7/25までの新規失業保険申請件数	46.4万件	46.0万件
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com